

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	児童生徒の自立支援
評価指標	・本人・保護者からの学校教育自己診断における満足度の向上 ・教員のアンケート調査による指導力・授業力の向上 ・市町教育委員会へのアンケート調査による満足度の向上
計画名	泉南地域支援教育センター

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	(1)アセスメント力（こどもの発達と障がい理解）、授業力・指導力、特別支援教育と教育施策の最新情勢を理解する力などの専門性をチームとして高める組織づくり。 (2)支援教育の専門性をリードし、インクルーシブ教育システム構築を実践できる人材の育成を計画的、組織的に実行する。特に、アセスメントと授業力を組み合わせた支援ができる育成体制の構築。 (3)泉南支援学校、すなわち高等支援学校との連携を図り、地域と支援学校のパートナーシップのもと、泉南地域の支援教育力の向上、さらに総合な支援体制が整備された泉南地域の創造に向けた取組を推進し、府教育センターと連携して「泉南地域支援教育センター」としての機能を創りあげる。
事業目標	(1)ビデオによる授業の振り返り、ICT機器（タブレット等）の活用、アセスメント機器及び教材・教具、関連書籍の導入等により授業力・指導力を向上させる。 (2)模範授業のDVD化及び教材・教具のデータ化で活用を推進し、授業・教材・研修ライブラリーを構築する。地域支援での研修資料の共有化を進める。 (3)地域との協働研究（早期教育、支援学級教育課程づくり、中学校校内支援体制、人材育成等）の冊子化。 (4)上記(1)(2)(3)の取組みの中核として「支援教育センター室」を整備する。
整備した 設備・物品	授業・教材・研修ライブラリー構築のためのデジタルビデオ機器（カメラ・BDレコーダー）及びパソコン、大容量ハードディスク、大型TVモニターの導入。アセスメントツール（TTAP、WAVES）の活用 支援教育センター室の整備（セキュリティの設備強化、防音設備、机・椅子・棚等事務用品） 【心臓検査関連用品等】・TTAP検査用具及びWAVES（各2個）・足底圧分布測定器フットロック・自立活動用具（平均台1基）【ICT関連機器】・タブレット（12台）、同保護ケース（12個）、ポケットWiFi（3台）・タブレット収納カート（1台）・電子黒板4台【授業記録用関連機器】・デジタルビデオカメラ（3台）、同アクセサリキット（3セット）・HDD16TB・SDメモリーカード64Gb（9枚）・リモコン付き三脚（3台）【センター室整備関連】・スチールキャビネット（3個）、折りたたみ式会議用テーブル（11個）、会議用椅子（2脚セット5個）【特別支援教育関連書籍】・特別支援教育関連書籍
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：支援教育センター室 取組みの実施者：全校教職員
本年度の 取組内容	事業目標からの取組 (1)全初任者の授業を中心に30以上の授業を撮影、その後、映像を研究協議で活用、初任者等の授業力・指導力の向上に繋がった。今回購入のアセスメント機器・教材・教具を自立活動の授業で活用して個別の指導計画の生徒のアセスメントの基礎資料として活用した。情報端末利用率は昨年比2倍増（1,700件）。ICT機器活用の校内研修10回実施、校外研修8回参加、府教育センターのパッケージ研修で、ICT活用力向上をテーマに一年間実施。 (2)撮影した授業ビデオをDVD化し、授業づくりの個人学習や研修資料として活用。夏季休業中に校内の教材・教具展を開催。46点の展覧に校外から48名の参加者があった、同時に教材づくり研修を実施した。校内から教材・教具等の資料174点をデジタル化、校内LANで共有し、校内で活用できる状態にした。 (3)地域と進行中の協働研究（支援学級や通常学級での授業と教育課程づくり）の実践を進めている、三年後、成果物の冊子化をめざしている。 (4)本年度、対象教室が耐震工事の為、机・椅子等の物品購入後は、会議や研修に使える状況にまでの整備に留まっている。
成果の検証方法 と評価指標	・学校教育自己診断（保護者）による評価：「子どもの学習内容に満足している」（85%） ・授業研究学習会参加者へのアンケート実施による評価：自己の授業力・指導力向上（75%）
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ・学校教育自己診断（保護者）による評価「子どもの学習内容に満足している」は、93%（目標87%）で達成（○） ・授業力向上のため「授業ビデオの活用」は校内での初任者研修等を中心に、自己評価を含めて効果が上がった（○） ・「わかりやすい授業」のためのICT活用については、機器購入後のICT端末利用率が前年比2倍に上昇（◎） ・授業研究学習会参加者へのアンケート実施による評価：自己の授業力・指導力向上（75%）（○） （分析・課題）経験の少ない教員の学びの実感が高まっている。わかりやすく、興味・関心を引き出す授業づくりの具体的な実践を一層進めるには、日常的な教員の学びを育む工夫が必要である。学校全体としての効果的なICT活用スキルは、まだ不十分である。以下、ICT活用を一層高める為に、①活用効果の教職員への共通理解促進 ②初心者向けと中上級者向けの活用スキル研修 ③授業活用の導入から入門のマニュアル作成 ④こども&おとな向けの情報モラルの指導 ⑤効果的活用の実践事例の蓄積 ⑥ICT活用の校内・校外への積極的発信  Fig.1 授業研究学習会について  Fig.2 授業力の向上  Fig.3 授業力が向上したと考える項目
次年度に向けて	【当初計画の「3年目の取組内容」の完全実施】 【追加】（授業力向上の取組を一層進める為、ICT活用力の向上と普及を中心とした以下の取組） ・いつでも使用できるICT機器の環境整備⇒具体的には、就学奨励費を活用して高等部全生徒に情報端末を購入継続 ・学校全体でのICT活用スキルを向上を促す講習・研修（初心者向けと中上級者向け）の計画的実施 ・学情NW更新を有効に活用したWiFi環境の整備。教員活用のICT端末増設と端末利用の2,000件/年 ・本年度立上のICT活用推進チーム（13名）の分掌格上げで、機器管理とICT活用力（校務・授業）を組織的に推進 ・授業づくり（ICT活用含む）実践事例の報告会・研修会を地域の支援学校・諸学校と共同して実施 ・校内・校外の授業力を理論（アセスメント、UD化等）面で強化をめざした外部専門家による公開研修の実施 ・地域へのICT活用の普及に向けた伝達講習等の実施